

進捗状況報告シート

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2011年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価		
		2011	2012	2013
1. 教育研究組織体制の見直し案を作成する。	教育研究組織体制の見直し案の作成状況 評価基準： A→教育研究組織体制の見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B		
2. 教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成する。	教育内容の情報を内外に発信する方策案の作成状況 評価基準： A→教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A		
3. 優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の策定	教員組織案の策定状況 評価基準： A→教員組織案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B		
4. 日本語教育の質保証に係る日本語教育研究活動案を作成する。	日本語教育研究活動案の作成状況 評価基準： A→日本語教育研究活動案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A		

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2011	2012	2013
	→			
	→			

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 本学における日本語教育全般について、従来、言語教育研究センターが主に担っていた業務を2012年4月より新設された日本語教育センターが担当している。本センターでは、本学の学部・大学院・交換留学のそれぞれにおける留学生に対する日本語科目や関連科目を提供しており、本学における日本語教育の中心的役割を果たしている。
★ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ (説明) 日本語教育センターでは、毎月の定例会議として、全学から選出された委員から構成される日本語教育センター運営委員会を開催している。また、日本語教育センターに関わる教職員により、日本語教育センター連絡会および日本語教育センター拡大連絡会も定例的に開催しており、教育研究組織の適切性について随時意見交換や検証を行っている。
その他	

《評価指標データ》

- 博士研究員 (PD) の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員 (DC、PD) の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況 (送付・受入)
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

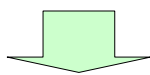
★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	日本語教育センターでは、専任教員が上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、大学院のそれぞれのコーディネータを務め、本学における日本語教育の実態を全学的に把握するよう努めている。また、多様な留学生に対する日本語教育の充実に向けて、「日本語を教えたい人のためのセミナー」の企画運営、留学生への様々な援助を行う「日本語パートナー」のコーディネートを実施しており、本学に在学する日本人学生に対しても、日本語教育への興味関心を涵養することに役立っている。留学生と日本人学生の相互交流を一層深めるために、年に一度「留学生ウィーク」を開催し、スピーチ発表会や各国料理の試食会などを実施している。
★ 小項目4.0.2	日本語教育センターが主管の教育活動や研究成果を学内および学外に発信するために、日本語教育センター通信を年5回発行している。研究成果報告として、センター設立初年度の2011年度より『関西学院大学日本語教育センター紀要』を発行しており、学外の日本語教育機関へも送付している。さらに、毎年、関学日本語教育研究会を開催し、教員の研究成果の公表を行っている。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策 (伸長させるための方策) は次のとおりである。

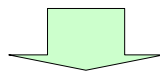
小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

- 「現状の説明」の4.0.1の説明は、教育研究組織の説明というより、センターの業務の説明のようです。組織の説明をお願いします。また、その理念・目的に照らしての組織の適切さについても言及をお願いします。「効果が上がっている事項」の説明には「教育内容の情報を内外に発信する方策」や「日本語教育の質保証に係わる日本語教育研究活動」の内容については記述されていますが、進捗評価Aの基準となっている「方策案の策定」や「活動案の作成」について言及がありません。記述の整合性に関する配慮をお願いします。
- 2011年に設定された目標の追求は概ね適切に行われているように思います。さらに努力することによって大きな効果が得られることを期待します。
- 小項目4.0.1は、センターが理念・目的に照らして適切か、組織の編成原理はどのようなものか、社会の要請に適合しているか、というものです。規程に定められた業務、構成員などを使って説明されると良いでしょう。
- 効果が上がっている事項の小項目4.0.1の記述は、センターの活動内容であり、本項目の記述よりも「0. 理念・目的」において（活動内容）として記述される方が良いでしょう。また、本記述は現状説明しているだけで効果が上がっていることの説明にはなっていません。
- 効果が上がっている事項の小項目4.0.2の記述は、小項目4.0.1での記述か自由記述欄での記述内容でしょう。
- 目標の進捗評価が「A」の場合は効果が上がっている事項に、「D」の場合は改善すべき事項に記述が必要です。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

III. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

○2011年度に設定した目標の1「教育研究組織体制の見直し案を作成する」については、BからDに変更する。同じく目標の3「優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の作成」についても、BからDに変更する。

○「現状の説明」の4.0.1の記載を以下のように変更する。

「日本語教育センターは、センター長とセンター副長のもと、上ヶ原キャンパスの学部留学生、三田キャンパスの学部留学生、大学院留学生、及び交換留学生を対象とした日本語科目をそれぞれコーディネートするコーディネーターを配置し、それぞれの科目のカリキュラムと担当者のコーディネートを行っている。こうしたコーディネート業務は、センター副長と1名の専任教員、及び特別契約教員と常勤講師とが分担している。日本語科目を受講する留学生の能力とニーズに合わせたカリキュラムの提供と実施の責任者を明確にする体制は、留学生数の増加と質の多様化に対応し、その受け入れの要となる日本語教育を充実・発展させるという日本語教育センターの理念・目的に適合しているといえるが、新任の常勤講師の役割分担の方針や、研究活動における役割分担制度はまだ未整備である。」

○「効果が上がっている事項」については、記載を変更する。まず、小項目4.0.1については、以下のとおり変更する。

「日本語教育センターの教育研究活動の状況について、2011年度に設定した目標2「教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成する」及び目標4「日本語教育の質保証に係る日本語教育研究活動案を作成する」とを掲げた。これら目標2及び4を達成するために、センターが主管の教育活動や研究成果を学内および学外に発信するために、日本語教育センター通信の年5回の発行を決定し、2011年度中に開始した。研究成果報告としては、『関西学院大学日本語教育センター紀要』の発行を決定した。すでに昨年度末に創刊号を刊行し学外の日本語教育機関へも送付している。さらに、目標4に関しては関学日本語教育研究会を年2回開催する案を作成し、2011年度より実施している。」

小項目4.0.2については記載を削除する。

○「改善すべき事項」については、小項目4.0.1について以下のように記載を追加する。

「目標1「教育研究体制の見直し案を作成する」がまだ完成していない」。

小項目4.0.2に関しては以下を追加する。

「教育研究組織の適切性を定期的に検証するための目標3「優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の策定」が未策定である。」

○「改善方策」については、以下のように記載を追加する。

小項目4.0.1については、「新任の常勤講師の役割分担の方針と、研究活動における役割分担制度をについての教育研究体制の見直し案を作成する。」

小項目4.0.2については、「目標3を策定し、毎年3月のセンター連絡会において、教員組織が適切であるかどうかの検証を行う。」